

2021年度（令和3年度） 学校法人ゴスペル学園ゴスペル幼稚園

学校評価

〒901-0361 沖縄県糸満市字糸満 1693-2

TEL 098-994-2145 FAX 098-994-2566

報告者 理事長 山内友子

作成日 2022年3月25日

2021年4月から学校法人ゴスペル学園ゴスペル幼稚園として9年目を迎えました。子ども子育て新制度(2015年)、幼児教育の無償化(2019年)など、幼児教育や子育てに対する国や保育行政の在り方にも変化があった過去8年でした。ゴスペル幼稚園も、引き続き地域の幼児教育施設として一層の教育の質向上を目指し、このように教職員による自己評価を実施いたしました。下記の学校評価を踏まえ、本園の更なる教育活動と教育環境整備の充実、そして教職員の資質向上に努めます。

2021年度（令和3年度）の総括

2020年度(令和2年度)に引き続き、「コロナ禍」での幼稚園活動や園行事が制限されることがあり、糸満市内では「特別保育」も一定期間実施されました。特に、2022年1月から流行が拡大したオミクロン株の出現で、通常の園生活と同時に継続的な感染症対策が求められる中、園児達の成長に大切な幼稚園生活を継続することに注力した1年間でした。保護者の方々のご理解とご協力を頂きながら、幼稚園としてもコロナ禍2年目を教職員一丸となって過ごしてきました。残念ながら、本園発表会が中止になり、各クラスそれぞれの演目はビデオ収録してご家庭に提供することになりました。毎週の礼拝やお誕生会も、引き続き分散形式での開催となりましたが、日々の園生活の継続を通して、集団での学びや経験の重要性を改めて実感する毎日でした。厳しいコロナ禍の時期もありましたが、登園できる際には充実した幼稚園生活を送ることができたと考えております。

2020年度と同様、ご家庭のご理解もいただきながら、発熱や呼吸器症状などの風邪症状がある園児や教職員の厳格かつ迅速な登園・出勤自粛の徹底を継続しました。幼稚園ではできる限りの感染症対策を講じつつ、園児達の学びの保障を継続していけるよう努力いたしました。

父母の会役員の皆様や各ご家庭からも多くのご協力を頂き、年度を締めくくることが

でき、大きな感謝を覚えております。引き続き、園児達にとって大切な幼稚園の日々が守れるよう、気を引き締めて幼稚園生活を進めていく所存です。

《 教育目標 》

『子どもたちひとりひとりが幼児期を精一杯生きることができる環境を』

「聞くこと」・「考えること」・「伝えること」が幼児教育の中で特に大切な事であると捉え、以下の保育方針をもって保育に携わっていきたいと考えています。

《 保育方針 》

『良心を持って判断し、豊かな感受性を備える』

園児たちが体験を通して知識と教養を高め、豊かな心を培い健やかに自律の精神を養い、それぞれの個性を大切に捉える教育をします。

① キリスト教保育

神の愛を感じ、人を愛することを目標とした保育

キリスト教保育とは、神の前での良心教育をその生命線としており、このことを踏まえて「本当に大切なことは何か」を園児と共に考えていきます。園児一人ひとりに寄り添い、園児一人ひとりが神と人ともに愛されている存在であることを実感できる幼稚園を目指します。

② 自由保育

自由で温かい家庭的な環境での保育

それぞれの個性を尊重し、伸び伸びと自己表現ができるよう、日々の様々な活動を通して園児達の発達を支えます。集団生活の中でのルールを学びながら、大切な幼児期に大好きなお友達や先生達とたくさん遊び込むことに重点を置いています。

③ 知識を経験として学ぶ保育

伝えること・考えること・善し悪しの判断ができる

他者と関わることにより、他者を理解し、つながりを大切にする。自然に触れ、知ることによって園児の創造力と感受性が高まることを目指します。

1. 2021年度主要目標

- ① 全職員、本園の教育目標・保育方針の理解、実践、その目標の達成に努める。
 1. 月に一度の教師会では、当該月の聖句や各月の目標などを教職員一人ひとりが意識する。本園の建学の精神にのっとり、キリスト教保育を実践していく時に大切な心構え、予備知識など、園の方針をしっかりと各教師が理解したうえで、日々の保育を行うことを改めて確認する。
- ② 教職員の質の向上を目指し、幼児教育に関する県内外の研修・講演会等に積極的に参加し、日々の園児との関わりや指導に役立てる。
 1. コロナ禍の中、本園では遠隔（リモート）やハイブリットでの研修参加を積極的に推進していき、可能な限り教師の学びの継続と教育の質向上を意識する。
- ③ 園児一人ひとりに対し、全教職員（クラス担任から事務員まで）が個々人の成長と子どもらしい育ちが保障されるよう、必要な情報の共有を図り、各園児に最適な環境を提供できるようにして、当該園児の日々の課題に共に向き合う。
 1. 毎日の朝と午後の教師間ミーティングを情報共有の場として活用する。
 2. 必要に応じて、関りが深い教職員や当該園児の保護者とも面談を行い、幼稚園と家庭の双方で成長過程を共に考える。
- ④ 食育の一環として、園庭や屋上で野菜や果物の栽培を行う。園児自身で育てた野菜や果物をみんなで調理、また食する過程と成長の喜びを感じ取る。※新型コロナ対策として、リスクを伴うと判断される食育活動は教師を中心に行い、感染予防を常に意識して食育活動を実施する。
 1. 新型コロナの流行状況に留意しつつ、できる限り園児達にとって大切な食物・植物の成長や管理を体験できる食育推進をしていく。一つには、これまで以上に植物の毎日の成長過程を可視化することで、生物に対する興味・関心を深めていく。
- ⑤ 安全対策として原則毎月1回、防犯・火災・地震等の訓練を実施する。年に2回は消防署と連携（訓練の事前通告を含む）して、緊急時を強く意識した訓練を行う。
 1. 教師間でも役割を再確認し、それぞれの訓練で担当となる職員を定めて、教職員の連携を図るとともに、万への備えを全教職員が日頃より意識するよう務める。
 2. 避難訓練などは、避難に要する移動時間も計測しつつ、想定できる範囲で実際の避難行動を意識して行う。
- ⑥ 保護者への対応と幼稚園からの連絡についても、適宜、必要に応じて迅速にコミュニケーションを取ること(面談、一斉連絡含む)を意識する。園生活において、

各家庭との連絡・情報共有は欠かせないことであり、全教職員がその点を改めて意識付けすることが確認された。

1. 必要な連絡などは、登降園管理システム(コドモン)を通して行う。
2. 園児の様子や情報提供も、適宜コドモンで行う。
3. 園児の発達や園生活に対する相談は、電話や面談(定期的のものを除く)で必要に応じて迅速に行う。

2. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目① 園の基本方針・保育の計画性

(達成) ゴスペル幼稚園全教職員が園の方針・各クラスやグループの保育内容・目標を把握して共通理解に努めている。中核をなす教職員中心に、幼稚園としての方向性をしっかりと把握できている。

(取組状況) 通常保育終了後のノンコンタクトタイムを有効に活用するため、教職員による各クラス・グループの保育内容等の報告と確認、そして園児の活動や職員間で共有すべき事項を周知し、常時振り返りを行うことができた。設定保育の時間、朝やお昼の自由活動の時間など、教職員間での連携や園児との距離や関りを考えながら行動することを改めて意識付けした。毎朝(7時55分)と通常保育終了後の15時前後からの祈祷と職員間ミーティングは、毎日欠かさず参加可能な教職員全員で行っている。翌日のクラス・グループ同士の連携など、教職員一人ひとりがその日の流れを事前に把握し、終了後に反省・評価すること、またそこから発展を考えることに留意した。昨年度(2020年度)に引き続き、ミーティングに参加できない教職員も確認できるようにミーティング内容の記録を取り、参加できなかった教職員(又はお休みの場合)もその日話し合われた内容を後からでも共有することが徹底できた。毎日の振り返りを今後も大切にしていきたい。

評価項目② 教師としての資質や能力・良識・適性

(達成) 教職員がそれぞれに沖縄県私立幼稚園連合会(県内・県外)やキリスト教保育連盟(県内・県外)主催の研修会・講習会に積極的に参加した。新型コロナウイルスの感染状況により、多くがWEB(またはハイブリット)研修であったが、園としても各教職員に研修参加できるようシフト等で配慮した。

(取組状況) 研修の事前周知は全教諭に伝えられ、園からも必要な研修にはできる限り参加するようシフト等を調整した。研修に参加した教職員には、研修報告書(文章による概要説明と個人の振り返り・展開)に参加した研修から2週間以内に提出させた。研修内容の報告を通して、参加できなかった教諭にもその研修内容を周知し、教員としての資質向上に努めている。

2021年度も、下記にある研修（安全対策、食育・アレルギー、幼少連携、特別支援など）について、それぞれ専門性のある分野の研修に参加することができた。教職員が自身の教育の質向上のために各研修に参加できるよう学園内でも継続して積極的に取り組んできた。

＜2021年度参加研修一覧＞（対面、zoom）

※下記は沖縄県私立幼稚園連合会、キリスト教保育連盟、キャリアアップ研修のみ記載

- 沖縄県私立幼稚園連合会
 - ◆ 教師研修会（2021年6月）zoom研修（5名参加）
 - ◆ 教師研修会：九州地区鹿児島大会（2021年8月）zoom研修（4名参加）
 - ◆ 主任教諭等研修会（2022年1月）zoom研修（4名参加）
 - ◆ 設置者・園長研修会（2022年2月）zoom研修（2名参加）
- キリスト教保育連盟（沖縄部会）
 - ◆ 総会と礼拝メッセージ（2021年5月）（4名参加、zoom）
 - ◆ 夏の研修会（2021年8月）（5名参加、zoom）
 - 研修内容は、「キリスト教保育について」を学ぶ機会として、連盟本部が主催する「第92回夏期講習会」を沖縄部会として参加。
 - ◆ 秋の研修（2021年10月）キリスト教保育連盟本部（東京）より講師の高梨美紀氏（東京、茂呂塾保育園・園長）が講演（教師は5名がzoom参加）
 - ◆ 園長・主任会（2022年3月）（1名参加）
 - 交流会、情報交換会
- キャリアアップ研修（参加した研修）WEB研修（2021年4月から22年3月）
 - ◆ 沖縄県指定保育士等キャリアアップ研修（マネジメント）2名
 - ◆ 沖縄県指定保育士等キャリアアップ研修（障がい児保育）1名
 - ◆ 沖縄県指定保育士等キャリアアップ研修（保健衛生・安全対策）2名
 - ◆ 沖縄県指定保育士等キャリアアップ研修（乳児保育）1名

評価項目③ 保育の在り方、幼児への関りと対応

（達成） 登園から降園まで、園児一人ひとりに合った声掛けや接し方を心掛けた。対象の園児が課題としていることを幼稚園のチーム保育の中で、また個別指導で対象園児に対するアプローチが最善になるよう日々の振り返りを通して色々な方法を模索してきた。特に、担任や対象園児に一番近い存在の教師を中心に、園児一人ひとりへの必要な関り・対応を意識した。

（取組状況）単に同年齢の園児の発達や成長を比べるのではなく、日常生活の中で園児一人ひとりの発達や成長過程を把握し、全教職員間でその発達段階とその

時々の園児個人の課題を共有することを意識している。必要に応じて、教職員ミーティングで個別の園児についてきめ細やかなアプローチができるよう心掛けた。特に、主任、担任、そしてクラス補助との連携を強化して、園児の細かな身体的動きや情緒的な表現にも留意するように努めた。クラス補助の教員も一緒に課題や目標を共有し、主任・担任・補助の連携をとりつつ園児一人ひとりに対してより適切な関りが持てることを強く意識した。

評価項目④ 自然や地域社会との交わり・交流

(達成) 食育の取り組みにおいては、園内施設において教師の管理・指導の下、園児達が主体的に関われることを意識して、野菜や果物の栽培を行うことが年間を通して達成できた(新型コロナウイルスの影響もあり、食する点や調理する点については制限があるときもあった)。近隣の社会福祉法人の老人ホームや県立高等学校などとの交流(敬老会、ハロウィンパーティ、植樹祭等)は、新型コロナウイルス対策として以前のように実施できていないが、感染状況次第で今後は交流会の再開を検討していきたい。

(取組状況) 教員の指導の下、園児自身で植えた野菜や果物の成長過程を園児達自身が探求心を持って観察できるよう導入や声掛けを考慮し、毎朝の水やりや観察にも積極的に参加を促した。植物図鑑や月間絵本で導入されている植物にも言及して、幼稚園にある身近な植物により一層関心が持てるよう教職員も意識した。毎日のミーティングでも、食育の取り組みに参加した園児達の反応や感受性を教職員間で改めて共有することを心掛け、今後の食育活動に繋げていくことが随時話し合われた。園としても、今後も食育・栽培活動の幅を広げるために、環境整備を進めていく方向性が確認された。

評価項目⑤ 幼稚園における安全対策

(達成) 安全対策として毎月、防犯・火災・地震等の訓練を実施できた(安全や訓練に対する講話を含む)。訓練の前後に、教師から園児向けの注意点や振り返りのお話も大切にしている。年度内に2回の消防署と連携(訓練の事前通告を含む)を実施した。消防署との連携時には、実際に職員室から消防に連絡し、全園児、全教職員が参加して、万一来ることを心がけている。今年度は、AED(自動体外式除細動器)も購入し、園に備え付けることができた。

(取組状況) 火災訓練では、出火元を訓練毎に変えて、各訓練で臨機応変に対応できているか確認した。園児に実際に「自分の命を守る」という意識を持ってもらうことを意識した。地震後の津波を想定した訓練も、避難指定場所の近くの小学校への避難訓練を実施できた。避難時(地震・津波訓練)の時間も昨年度に引き続き複数回にわたり計測し、設定目標の時間と照合しつつ避難意識を高めている。早く避

難しつつ、横断歩道を渡る際など園児の完全確保を職員間で何度も確認し、緊張感を持って訓練を実施した。

防犯訓練では、不審者対応・対策を教職員間で共有するようにし、園内の複数箇所に設置されている防犯カメラを職員が随時確認する等、部外者の園内への出入りを必ず確認するよう心掛けています。教職員には、改めて防犯カメラの位置と毎日稼働しているかの確認を義務付けています。

今年度でAED(自動体外式除細動器)の設置が完了し、ほぼ全ての教職員がAEDの実際の使い方、留意すべき点などを踏まえた園内研修(外部から講師を招聘)に参加しました。

評価項目⑥ 保護者への対応と幼稚園からの連絡

(達成) 毎月のお知らせ等(園ホームページ、園だより、一斉メール)で園生活に必要な事柄を保護者に事前にお知らせし、日々の活動や園行事を円滑に進めることができている。2019年度から登降園管理アプリ「コドモン」の運用を開始しているが、事務局における対応も含め、幼稚園のICT化を推進している。

(取組状況) 持ち物や行事の日時や集合場所といった基本のお知らせに加え、行事毎にアンケートを実施して保護者からの意見を受け止め、常に当該行事の分析と今後の課題を協議する機会を設けている。特に、保護者からの視点を意識しつつ、こどもの目線を意識して園でできる改善点を常に熟慮するよう努めている。コロナ禍も2年目になる一方、依然として大きな行事が例年通りの規模で実施できないことがあったが、その都度、行事の実施・進め方についても保護者を中心に関係者からの意見を取り入れることを意識している。

登降校管理アプリ「コドモン」によって、登降園の際の各園児の登園・降園時刻、毎月の保育料、給食の献立表や各グループスケジュールなど、多くの情報を保護者のスマートフォンで確認できるようになっている。「コドモン」を導入して2年目になり、保護者の間でも本アプリの利用が完全に定着した。お休み、遅刻、預かり保育の申込連絡も、保護者アプリからいつでも(24時間体制)幼稚園に連絡できるようにしており、教職員にとっても連絡がデータで残るので業務改善と連絡ミスの防止に繋がっている。今後も人的ミスやシステム上の問題点がないかを事務局を中心に常に再考する姿勢で取り組みたい。